

北九州市民球場で冠試合

アンサー倶楽部



▶出演中のCMで着用している水色のユニフォーム姿で投げ込む柴原洋同社アンバサダー



同社社員が選手に花束贈呈

総合不動産の㈱アンサー倶楽部（北九州市小倉北区浅野2丁目、三谷俊介社長）は4月20日、北九州市民球場（同区三萩野2丁目）で冠試合を開催した。

試合前の始球式には、同市出身で同社アンバサダーを務める、ホークスOBの柴原洋氏が登場。サウスポーから力強い投球を披露すると、スタンドから大きな拍手が送られた。バックネットやベンチ内など、随所に社名やロゴが掲げられ、注目を集めていた。試合はホークスの甲斐拓也捕手が場外ホームランを含む5打点の活躍を見せ、楽天イーグルスに6対4で勝利。北九州で4年ぶりの白星を収めた。



左から中野勇輝朝日広告社本社営業第2部次長、石原孝七郎アンサー倶楽部専務、三谷俊介社長、柴原氏、前田啓美アンサー倶楽部常務

そのほか、同社は不動産関連でニッチといわれる分野で新たなビジネスを創出する動きにも積極的。直近では、築40年以上の老朽化アパートや新築マンションのガレージなどをトランクルームにリノベーションし、一般に貸し出すサービスを開始している。現在、福岡市博多区などの物件（120戸〜130戸）をトランクルームとして貸し出している。早川社長は「トランクルームリコンテナという従来の発想を転換し、借り手のない老朽化したアパートや新築マンションでも使われていないガ



倉橋高治
K. ホールディングス社長

大型再開発が動き始めている天神や博多駅に近いエリアで、中規模のオフィスビルを開発しているK.ホールディングス（福岡市中央区大名2丁目、倉橋高治社長）では、引き続き、中央区や博多区を中心に新たな開発用地の取得に力を入れている。

同社は昨年6月に中央区大名2丁目8階建てのオフィスビル「大名センタービル」を完成させたほか、

博多区博多駅南2丁目に9階建てのオフィスビル、中央区渡辺通3丁目の桜十字病院近くに8階建てのオフィスビルの開発を手掛け、海外投資ファンドに売却している。倉橋社長は「不動産市況を取り巻く環境は厳しいものの、資金力のあるところは売買に対する意欲は高く、東京や海外の法人投資家の福岡に対する関心は依然として高い」と話す。



三谷俊介
アンサーホールディングス社長

特に倉橋社長は、天神ビッグバンによる大型再開発が進んでいることや、国際金融機能を福岡市に誘致する動き、東京から地

福岡本社開設、福岡都市圏で事業拡大へ アンサーホールディングス 売買、仲介に注力

北九州市を拠点に不動産賃貸、売買、管理業などを展開する（株）アンサーホールディングス（同市小倉北区浅野2丁目、三谷俊介社長）は、5月1日付で福岡市博多区に福岡本社を開設、福岡市を中心に福岡都市圏での事業拡大を目指す。昨年6月に創業20周年を迎えた同社は現在、東京プロマーケットへの上場に向けた準備を着実に進めており、北九州に加え、福岡都市圏でも総合不動産会社としての存在感を高めていくことが狙い。福岡本社は同区博多駅

ネットワークが優れた福岡の優位性は従来と変わらな。大阪以上の街にしたい」といふ思いは現在も「の時期」（倉橋社長）

東2丁目のARKビル3階。福岡本社のほか、傘下のアンサー倶楽部福岡店のオフィスも入居する。当初は5人体制でスタート、営業人員の増強に合わせて取り扱い件数の拡大を図る。三谷俊介社長は「地元・北九州での営業基盤拡大とともに、4〜5年前から福岡市に進出したいという思いが強く持っていた」とした上で、「人の多さ、明るい街のイメージ、にぎやかさといった福岡の熱気に新たなビジネスチャンスを感じ、福岡本社開設を決めた」と

経緯を話す。福岡本社では、事業用、住居用の仲介、売買に注力する方針。昨年4月、7月をめぐりに福岡市東区、早良区にアンサー倶楽部の店舗を新設、仲介のほか、買取再販、戸建て住宅の販売など業容の拡大を目指す。三谷社長は「福岡のマーケットは競争が激しいといわれるが、取引単価は北九州よりも高いことから、相応の手数料収入が期待できる」と話す。今後、営業人員を20人体制まで増強し、3年後をめどに軌道に乗せていきたいとしている。

東証1部上場で不動産金融コンサルティンク事業を展開する（株）ビーロッド福岡支社（福岡市中央区赤坂1丁目）の江崎憲太郎取締役支社長は、コンサル案件として手掛け、2月に完成した同市南区屋形原の賃貸の戸建て集合住宅「mihiro345」が3月に募集し、4月に満室になった状況などを紹介した上で、「賃貸は例年と変わらず悪くない」と現状を説明する。また、江崎取締役支社長は「土

地の価格は依然として高止まりが続く、建築費も上昇している」と話し、仕入れ環境は依然として厳しい状況を示唆する。また、コロナ収束を見据え、中長期的な視点で福岡の不動産マーケットにチャンスを見出し、福岡で存在感を高める動きも見られる。米国・シカゴに本社を置き、世界80カ国で不動産関連のコンサルティンク業務などを展開するジョーンズラングラサーの日本法人・JLL日本（東京都千代田区、河

西利信社長）が4月1日付で、福岡オフィスを支社に昇格させたことがその一例。支社長には福岡県不動産鑑定士協会元会長で、日本不動産研究所の九州支社長などを務めた山崎健二氏が就任。天神ビッグバンなどで大型再開発が進んでいることや、官学で国際金融機能拠点の誘致を目指す動きなどを背景に福岡での事業拡大を図る。商業用不動産の売買や外資系を含むオフィステナントの誘致に関するコンサルティンクなどに注力する。

コロナ禍で足元の動きは鈍化しているが、賃貸を含む住宅関連は底堅く推

回復の潮目、視界不良でも住宅に底堅さ



銀行本店ビル